

国際交流 基金賞

2005年度

国際交流基金賞
国際交流奨励賞
発表

2005(平成17)年度の「国際交流基金賞」「国際交流奨励賞」受賞者が決定しましたので、ここに紹介します。この顕彰事業は、1973年から毎年続いているもので、日本では文化勲章以外で唯一、天皇・皇后両陛下下拝謁を賜るものです。

宮崎 駿

「みやぎき はやお」氏

アニメーション映画監督

〔日本〕

アニメーションを中心とした芸術活動を通じて、日本文化を普遍的に伝え、その独自のメッセージ性が世界中の若者たちの心をとらえた。その多大な功績に対し、国際交流基金賞を授賞する。



「千と千尋の神隠し」

©2001 二馬力・GNDDTM



■ 経歴

1941年、東京生まれ。63年、学習院大学政治経済学部卒業後、東映動画(現・東映アニメーション)入社。Aプロダクション、日本アニメーション等を経て、85年にスタジオジブリの設立に参加。

その間、『太陽の王子ホルスの大冒険』(68年)、『パンダコパンダ』(72年)等の劇場用アニメ、『アルプスの少女ハイジ』(74年)等のテレビアニメ制作に携わり、『未来少年コナン』(78年)の演出を手がけ、『ルパン三世 カリオストロの城』(79年)で劇場作品を初監督。雑誌『アニメージュ』に連載した自作漫画をもとに、84年には『風の谷のナウシカ』を発表、自ら原作・脚本・監督を担当し注目される。

その後はスタジオジブリで監督として『天空の城ラピュタ』(86年)、『となりのトトロ』(88年)、『魔女の宅急便』(89年)、『紅の豚』(92年)、『もののけ姫』(97年)、『千と千尋の神隠し』(2001年)、『ハウルの動く城』(04年)といった劇場作品を発表。2001年にオープンした「三鷹の森ジブリ美術館」の構想・演出も手がけている。

■ 著作

『トトロの住む家』、『シュナの旅』、『何か映画か』(黒澤明氏との対談集)、『もののけ姫』、『出発点』など多数。監督作品は海外でも広く上映されており、DVD、VHS、著作および関連書籍は約50カ国で発売されている。

■ 受賞歴

- 1998年 日本アカデミー賞最優秀作品賞(『もののけ姫』)、淀川長治賞
- 2001年 第49回菊池寛賞
- 2002年 第52回ベルリン国際映画祭金熊賞、第68回ニューヨーク映画批評家協会最優秀アニメ賞(以上、『千と千尋の神隠し』)、朝日賞、フランス国家功労賞、パリ市勲章(仏文化省)
- 2003年 第75回アカデミー賞長編アニメ映画部門賞(『千と千尋の神隠し』)
- 2004年 第61回ヴェネチア国際映画祭オゼツラ賞(『ハウルの動く城』)
- 2005年 第62回ヴェネチア国際映画祭栄誉金獅子賞(すぐれた作品を生み出し続けている監督に贈られる)

元大阪外国語大学ウルドゥー語教師、ウルドゥー文学研究者
[パキスタン]

日本におけるウルドゥー語・ウルドゥー文学研究の促進に尽力された業績を称えらるとともに、日本とウルドゥー語文化圏の学術・文化交流分野および日本とパキスタンとの相互理解促進におけるさらなる活躍を期待して、国際交流奨励賞・日本研究賞を授賞する。

タバッスム・カシミーリー
[Tabassum Kashmiri] 氏



■ 経歴

パキスタン・パンジャブ大学にて、1964年に文学修士号、73年に文学博士号取得。

■ 業績

大阪外国語大学にて24年間、ウルドゥー語・ウルドゥー文学の教鞭を執る。その他、日本においてウルドゥー文学史の研究を精力的に行なった。現在、『ウルドゥー・日本語辞典』編纂中。

■ 著作・論文等

『日本におけるウルドゥー語』(1985年)
『ウルドゥー語 会話編』(共著) (1999年)
『ウルドゥー文学史、初期から1857年まで』(2002年)
『鳥、花、池』(ウルドゥー創作詩全集) (1996年)
『日本の現代詩：紹介と翻訳』(1985年)
『良寛：日本の禅詩人』(1985年)
『大江健三郎—ある日本人長編小説家』(1996年)
ほか、ウルドゥー文学、日本文学、詩に関するものなど多数

中国日語教学研究会

[中国]

中国の諸大学における日本語教師の統括的組織として指導力を発揮し、日本語教育の質の向上に貢献してきた実績を称え、東アジアに広がる日本語教育分野のさらなる連携強化における役割を期待して、国際交流奨励賞・日本語教育賞を授賞する。



■ 沿革

1982年設立。中国全国の日本語教育界を組織化し、学術交流事業(教師同士の交流、日本語教育法、日本語、文学、文化、社会などの学術研究など)を行なう。団体会員として日本語学設立の中国の大学の数が126校参加、教員数は1500人を超える。中国における日本語教育の実態を把握し、問題点の発見や情報の交換において指導的役割を果たしている。さらに、日本、韓国、シンガポールなど、アジア各国、地域の日本語教育機構と広範な学術交流ネットワークを展開している。

■ 近年の活動実績

太平学校設立20周年記念シンポジウムの主催(2000年)、中日国交正常化30周年記念東アジア日本語教育シンポジウムの主催(02年)、日本語言文化教学と研究シンポジウムの主催(04年)、その他学術論文集の出版多数。また過去3回にわたり、ジャパンファウンデーション実施の日本語教育機関調査に対する協力など。

フィリピン教育演劇協会

[フィリピン]

[Philippine Educational Theater Association (PETA)]

演劇を通しての民衆啓発やコミュニティ形成への取り組み、および日本をはじめ多くのアジア諸国の芸術・市民団体とのコラボレーションの業績を称えらるとともに、アジアの芸術ネットワーク形成への今後の貢献を期待して、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を授賞する。



■ 沿革

1967年設立。1971年にユネスコITI(国際演劇協会) フィリピンセンターとなり、同年、第1回第三世界演劇祭を主催。1972年～1986年の戒厳令による設立者亡命を乗り越え、ピープルズカルチャー全国フェスティバルを主催。1986、87年「自由への誓い」ワールドツアーで評価を確立し、以来、社会参画型の演劇活動を国内外で積極的に展開している。

■ 日本の団体等との主なコラボレーション

- 1980年 劇団黒テント作品のマニラ公演を制作
- 1983-84年 「自由への誓い」日本公演(黒テントの招へい)
- 1989年 「カピタン・ボボ」日本全国ツアー(ピープルズ・ブランチ)の招へい
- 1997年～ 日本人演劇研修生の受け入れ(ほぼ毎年、2005年現在累計で6名)
- 1997-98年 「喜劇口ミオとジュリエット」日比共同制作作品の日本全国ツアー
- 1999年 国際児童青少年演劇協会日本センターの招へいで日本全国ツアー
- 2001年～ 在日フィリピン人による劇団設立に協力
- 2002年 日本演出家協会の招へいでワークショップを全国各地で実施
- 2004年 「アンデルセンはフィリピン人」福岡公演(福岡市文化芸術財団の招へい) ほか